2017 第388号
9 MONTHLY
Mitsuwa

目次

■1～2P 『維新建設に期待すること』 …大島様
■2～3P 『情報処理に四つのテスト』 …庄田
■4P 『無事故継続 2000 日達成して』 …菊池
■4P 『昼が勤務計画のカギ』 …人見
■5P 『改善活動で学ぶこと』 …齋藤
■6P 『これからも基本・基本・基本』 …川島
■6～7P 『声かけ一番まであと一歩』 …森
■7～8P 『「チーム」で「ワーク」と声かけ』 …大塚
■8P 『若手も連軌も訓練で成長』 …大野
■8～9P 『京都トップセミナーで学んだこと』 …瀧野瀬
■9P 『2020 年全線開通に向けて』 …大宮
■10P 『津波で消えた 3km を復興』 …佐藤
■10P 『次は無事故・無災害 1500 日』 …小野

維新建設に期待すること

東日本旅客鉄道㈱　宇都宮保線技術センター
所長　大島 伸行　様

維新建設との出会いは、平成 12 年 10 月に当時の小山保線区へ初めて助役としてデビューした時だった。37 歳という若さもあり、また、小山駅構内スリム化、通トン交換に対してロングレール卸し、ロング交換等大規模工事もあり、鼻息も荒く我武者羅に工事をこなしたといった感じである。当時はユニオン建設も維新建設もあまり大きな工事の経験がなく、とくに維新建設は若手が多かったため、私自身が監督員の立場を離れ（忘れ）、「軌工管」というよりは「軌作責」として現場を飛び回ったことが思い出される。とても充実した楽しい 5 年間だった。

小山保技セを離れる時のあいさつでは、「様々な工事経験を積み、技術・技能は格段に成長したことは実感しますので、これからは、更に仕上がり状態を意識して『いい仕事』をして下さい。」と言ったことを覚えている。

あれから 11 年が経過し、昨年 10 月に宇都宮保技セに着任し、再び維新建設との付合いが始まった。6 月に事故防止会議で雀宮の事務所を訪れた際に、茶髪にピアス等を見た時、昔、紺色の制服と共に小山駅構内を走り回ったことが思い出され、不思議と懐かしい思いがした。会議に入ると意見を言える風土と「小集団活動」に基づく事故防止の取組み、事務所内や倉庫も整然と整理整頓されており、JR としても見習う点が伺えた。

現場の最前線で働く維新建設に我々が求めるものは、様相や風体ではなく「しっかりした成果物『いい仕事』」である。そのなかには、事故のない安全作業で始まり質の良い仕

上がりがある。事前の打合せや準備作業（段取り八分）を的確に行い、本作業では先を読んでスムーズに作業を進め、最後の仕上がりは丁寧に道床を整理し（肩をならし）、妥協を許さない跡確認で終了する流れを継続してほしい。

最近でも、事故事象が止まらない状況ではあるが、一人ひとりが意識を持って安全作業に取組むこと、強く思うこと以外に止める方法はない。また、JR・パートナー会社・協力会社が三位一体となって事故防止に対する意識を向上させ（温度を合わせ）、質の高い工事を行えるよう私達 JR も出来ることを実践したい。意見や要望があれば遠慮なく言える環境を構築したいと思う。

最後に、**事故防止会議でお願いしている「意識を込めた確認行為」「疑問を感じたら声かけ」「危ないと思ったら列車抑止」の実践を継続**してほしいと思う。

情報処理に四つのテスト

維新建設㈱　専務取締役　庄田 雅直

維新建設社員の皆さん、ならびにミツワグループ社員の皆さん、日々の業務お疲れ様です。気がつけば早いもので、あと 3 ヵ月後には年末の気忙しい時期となり歳を重ねるわけですが、その重ねただけ皆さんが働く会社が社会から、鉄道会社から、取引先から信用と信頼を昨年より大きくすることができたでしょうか？また、取引先からの要求事項も刻々と変わり、朝令暮改とまでは言い過ぎですが、まさに昨年の常識は現在の常識ではなくなって困惑する場面もあります。このような変化の速さで会社を成長させるためには、働く社員の皆さんが得た多くの情報を正しく整理することが肝要です。これから年末に向けて繁忙期となり、社会全体も非常に慌ただしくなりますから、しっかりと組織の情報管理を行い「期待される会社」へと成長の足跡を残さなければなりません。そこで、私が考える組織運営での情報伝達と処理の考え方を少し述べます。

○ロータリー四つのテストから　※それぞれに、「その情報は…」と付けてみてください

①真実かどうか　　③好意と友情を深めるか

②みんなに公平か　　④みんなのためになるか

この四つのテストとの出会いは、今から 25 年前に、ある地方のロータリークラブ青年部に所属した時でした。この時期から四半世紀が経過しましたが、維新建設に入社して私の立場で判断を行う時はこのテストに照らし合わせています。単純な四つのテストですが、私には難解で、とくに③と④はこれまで満足がいく答えを出せた記憶がありません。しかしながら、①の「真実かどうか」については、5W1H を活用して会社や仕事に必要な情報なのかと情報の受け入れを考えます。当たり前ですが、私の判断が誤り本当は必要な情報なのに却下して会社の成長を止めてしまうケースや、逆に誤った情報を受け入れ会社運営に致命的なエラーを生じさせる恐れがあります。そこで、次からは情報処理として最も重要な「①真実かどうか」について触れたいと思います。

情報処理の第一ステップですが、まず情報を入手すると情報処理の優先度（処理期限）

はどうか、誰と共有するかなどといった情報の吟味を行うわけですが、情報の持つ重要性を正しく見いだせないと、大きな損失になります。そこで、情報の裏付けを行います。その裏付けのひとつであるのが報連相の相談です。私の場合は社長、本社・指扇事務所、所長・副所長・現場責任者、取引先業者の担当者らの中で共有しています。杓子定規の考えとならぬように、可能な人数で情報を共有します。ですから、社員の皆さんも情報の共有や相談できる仕事のパートナー、上司を数人つくるようお願いします。

第二ステップでは、情報の評価を行います。電話、FAX、メール、対面による打ち合わせなど重要度に応じて多くの裏付けを集めます。この時、写真や見積書などの判断材料があると効果的です。また、文書や写真などの2次元で表せない労務管理情報などは、自分の目や耳といった五感で取材をして、なるべく思い込みのパーツを減らし真実の理由を探します。そして、集まった裏付け情報を四つのテストの項目ごとに情報の採用か却下の2グループ分けします。グループ分けで多く集まった裏付け情報が評価結果となります。いわゆるKJ法です。このKJ法ですが、付箋などに裏付け情報を箇条書きにして情報のグループを構成しながら用紙上に貼り付けていきます。短時間で報告書をまとめる場合には要点が解かりやすく適しています。ここで注意すべき点は、思いのほか裏付けが集まらない時があります。その場合は、結論を先送りにしてしまいがちですが、結論は必ず期限をつけてください。見積もりにも有効期限があるように、全ての情報には有効期限があります。私は、情報処理の結論は遅くとも2週間以内で判断しようと考えています。また、裏付けが集まらないということは会社には不要な情報であったと判断しても良いでしょう。

第三ステップでは上記の評価により会社に必要な情報と判断に至れば、ここから四つのテスト②～④に落とし込んで正しい情報の処理を検討します。現場や事業所に置き換えてみると、その採用した情報は…②安全対策はみんなが安心して取り組めるか　③ベストモデルや小集団活動で好意と友情を深めるか　④社会、会社、社員のためになるか、とテストを置き換えて検討します。少し、具体例を挙げてみますと、「台風が接近している」との報道情報に対して、台風シーズンなので集中豪雨への緊急対応の備えを万全にしなければならないと社内で注意喚起を出します。その注意喚起を受けて、②保安体制は線閉にする、飛散防止、水中ポンプ・発電機の準備、移動ルートと車両の冠水対策(ウォーターハンマー)、役職者の配置計画(交代含む)　③過去の壁新聞の掲示、ハザードマップによる過去の冠水箇所の洗い出し　④早期に対応することが社会貢献活動となることの心構えを会議で周知する、と四つのテストに落とし込み抜かりの無い計画を立ててください。

事務所も事業所も必要な情報を受け流しては発注者からの信用と信頼を勝ち取る機を逃すことになります。その積み重ねが、会社の成長を停滞させる原因となります。我々は日々入ってくる多くの情報に浮足立ち、あるいは重要性の気づきに遅れるなど、まさに漁夫の利とならぬよう正しい情報処理の感性を磨かなければなりません。高いハードルかもしれませんが時代に翻弄されることなく、日々の報連相をしっかりとやっていきましょう。

無事故継続2000日達成して

小山事業所 所長　菊池 純一

▶8/22にユニオン建設梶井本部長より感謝状を頂く

感謝状

維新建設株式会社 小山事業所 殿

貴事業所は平成二十四年三月一日に道床交換作業で発生した軌陸バックホウと軌陸ダンプ衝突事故以降 事故の重大性を深く認識し事故防止に取り組んだ結果平成二十九年八月二十二日をもって無事故継続二〇〇〇日を達成されました

ここに所員皆様の真摯な安全の取組みに対して感謝の意を表します

平成二十九年八月二十二日

ユニオン建設株式会社

常務取締役 線路本部長 梶井 敏史

前回、小山事業所では線路内の事故よりも線路外での事故が多いと書きましたが、前回の社報を書いた後に夜間作業でトラフ損傷（ケーブル圧迫）という事故を発生させてしまいました。久しぶりの事故で今後についての対応している最中に、続けて大型車の後部を駐車中の一般車両と接触させてしまう事故も起こしてしまいました。線路外での事故、とくに交通事故を平成 29 年度では連続して 2 件も発生させてしまい、さらに追い打ちを駆けるようにマクラギで指を挟む傷害事故も起きてしまいました。

トラフ損傷と大型車の接触事故が発生した際、これ以上は事故・事象を発生させないようにと朝礼での注意喚起や、作業中での要所での声かけを行って来ましたが、残念ながら事故の連鎖は止まりませんでした。朝礼や声かけが有効だったか無駄だったのかは、これだけ事故ケガが続くと正直分からなくなってしまいます。それだけに無事故継続はどれだけ難しいのか思い知らされました。しかし、そうは言っても小山事業所の社員が事故ケガのないように所長として何が出来るのかを考えつつ、引き続き同じことの繰り返しになるかと思いますが朝礼や各作業現場で社員には嫌な顔をされながらも、声かけや注意喚起を粘り強く行っていき、私自身が過去に経験した「あの時一声あれば・・・」や「何でこんなことになってしまったんだろ・・・」「こんな筈ではなかったんだけどなあ・・・」などの後悔先に立たず！な思いをさせないように努力してまいります。

昼が勤務計画のカギ

小山事業所 副所長　人見 博之

早いもので今年も残すところ 2 ヵ月となりました。今年の個人目標の月間勤務表ですが、計画ではそろそろ 8 割の出来具合になっているはずでした。ここ数ヵ月、同じような出来具合で月末に半月分。10 日前後に残りを出しているような状態で 1 ヵ月分を月末に掲示できないでいます。ユニオン建設の計画担当者や作業の担当者と細かく打ち合わせをしていかないと昼作業が計画的に組んでいけません。そこで、まずは月間の昼作業を確定させ勤務が組めるように進めていこうと思います。

また 40 億への取り組みとして、除草作業はすべての作業現場で刈った草が回収込みになっており、現場でトンパックに詰め、搬出し材料置場でコンテナへ移しています。これだと効率がとても悪いのでパッカー車を購入する予定です。来年度は現場から直接、産廃処理できるようにして、少しでも売り上げにつながるようにしていきます。今までの作業をもう一度見直し、無駄や新しい工法などをしっかりと勉強していきます。

改善活動で学ぶこと

小山事業所 副所長　齋藤　忍

▶バイブロ機によるくい打ち訓練

今年の目標（社員のサポーターになる）もそろそろ終盤の時期に突入してきました。先ずはサポーターの件ですが、私がサポートする結果として安全もその１つですが、最近の小山事業所では事故が定期的に起きています。事故のなかには車両事故が２件あり、後方の見えづらい車両に関してはバックモニターを配備しました。

重機講習は小山事業所と館林事業所合同でバイブロ機取り扱い講習を行いました。一般土木の仕様とは異なり、線路の架線直下ではエクステンションアームを外し、架線との離隔を確保して強制振動を行っています。恥ずかしながら私自身エクステンションアームの存在を認識しておらず、支障物等が無い現場でのバイブロ機使用時にエクステンションアーム取り付けて、あるべき姿での使用を怠りました。それもあり講習会を開催したのですが、結論を言いますとやってよかったと思います。実はエクステンションアームが現在使用している重機（コマツ）用になっていなかったのです。これでは急遽使用したいときに使用できませんでした。経年劣化の進んだ油圧ホースも交換し、実際にバイブロ機を取り付け、始動させるのに４人がかりで３時間も要してしまいました。河本工業社員様にも稼働状況を見て頂き、大変有意義な講習会にすることが出来ました。

改善委員会の活動では、熱中症対策を行いました。除草最盛期の経過に合わせて、気温の方も落ち着いてきましたが、蜂の活動が繁殖期となり、ちょっとした刺激で刺される時期に突入していきます。小山事業所は各熱中症バックにポイズンリムーバー（毒を吸い出すポンプ）を携帯品に入れるようにしました。まだ使用する事態になってはいませんが、もしもの場合、一刻でも早く応急措置として是非使用して下さい。

約半年間の活動を通して思うことは、休暇の取得は相変わらず難しかったり、休工日をもうけても急遽仕事になったりと、休暇事情だけはまだまだ課題が多そうですが、私が入社した 16 年前を振り返ると切り傷には唾を付け、熱中症という言葉もなく、気分が悪くなれば気合いが足りないと言われていた時代でした。比較するものではないかもしれませんが、現在の会社は確実に当たり前のように進化したと思います。働く環境改善に多額の投資をし、個人に対しても資格の取得や社員寮無料化など投資をして頂いています。これから入社する方やまだ入社して間もない方などは、これが当たり前でしょう。会社はどんどん進化します。私が感じている変化があるのだから、すべてを実現承諾するのは難しいかもしれません。ですが、改善できるところはどんどん改善し進化させたい意欲はあるので改善意見を教えてください。その結果、社員の定着になればと考えています。

これからも基本・基本・基本

宇都宮事業所 所長　川島 健路

▶線路立入前の指差し訓練を継続中

今年度の安全の取組みは線路立入前の待避訓練から･･･と言うことで取組みを「初歩」に戻し、要所要所で『指差し・声出し』を行い現物確認、声かけ合いによるコミュニケーション、気づくことに的を絞った声かけサポートカード(副所長作成)など、大前提は『絶対的な保安体制の確保』にあります。現場の判断で勝手に保安体制や作業変更を行わないことを徹底し、保安打合せ票や施工前ミーティングの内容を充実させ急遽の変更を防いでいます。作業効率重視や応用動作の先走りが起点となり、今まで多くの痛い思いをしました。また、今年度下期より始まる TC 型弾性マクラギの敷設に伴い、新規の機械や工具を導入することになります。作業前には機械の応急復旧訓練を始め器具の取扱訓練（基本を学んで応用を知る）が不可欠となります。

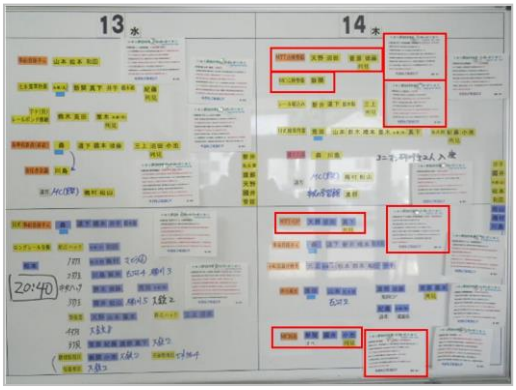
話題は最近の話に変わり、レール加工時には高速切断機を使用しますが、その切り口が曲がり製品の品質として JR 様やユニオン建設様に御迷惑をおかけしています。言いたいことは異常時対応と同じく、『早期対応力』についてです。前回は曲がったけど今回は大丈夫だった･･･、それを数回繰り返すうちにユニオン建設宇都宮出張所より、現場でご指導を頂きました。これには自らの対応力の無さに失望しました。『前回はまっすぐ切れた＝今回はきっと機械本体の据え付けが悪かったり、砥石が悪かったのでは？』と、勝手に解釈し「同じミスを絶対にしない」意識が欠落していました。今後、自分の仕事は何かよく考え、現場の是正を現場の社員に委ねることを無くしていこうと思います。腕次第･･･なんて仕事をさせてはいけないことを痛感しました。それによる無駄な労力や緊張感、感じる視線は社員のやる気の低下に繋がると思います。やるべきことを考えて環境整備を心掛け、『基本動作を崩さず継続していく』ことに的を絞り取り組んでいきます。

声かけ一番まであと一歩

宇都宮事業所 副所長　森 和大

今年度から実施している『声かけサポートカード』も 6 ヵ月が立とうとしている。自分自身の最重要課題である【安全声かけあい運動】として日々発信しているが、まだまだ宇都宮事業所の小さな事象が後を絶たないのが現状である。4/19 に発生したワンフレクレーンアーム転倒の事故以来、当事者の意見もあり、機械施工(MC・MTT)に特化した専門の声かけサポートカードを発信することで、不完全だった MC 点検業務、MTT 業務が番割ボードに加わり、より一層ボードに関しては安全レベルが構築されたと思っている。

だが…安全大会で誓った無事故無災害を念頭において、日々、目を光らせて計画を行っ



▶週間番割ボードへ「声かけサポートカード」を掲示する

ていたつもりのはずだったが…。7/21 の除草作業で新人者が熱中症を発生した事象や、8/30 にコンビニ駐車場から出車時、左右の確認不足から第三者との接触事故を起こしてしまった。どちらの事象も当事者や第三者に大事には至らなかったものの、またまた不甲斐ない事象を誘発させてしまったと反省するばかりである。なぜ宇都宮は一つの事故事象を起こすと、こう連鎖するのか??とつくづく思う。

今回の２つの事象は本人が気を付けていれば起きなかった…。と言ってしまえばそれまでだが、私はそうは思っていない。熱中症については、軌工管はじめ周りのみんなが新人者にはとくに注意して気を配り、少しでも具合が悪そうな時は強引にでも作業をやめさせるなど色々あったはずだ。交通事故に関しても誰かが一言、見通しが悪いから気をつけろよ!!焦らないでいいから気を付けろよ!!と言ってあげていたら起きなかったかもしれない。やはり『声かけあい』が一番だと思っている。大半の社員は声かけが出来ている。作業中の指差し・声出し・声かけあいは、どの会社よりも宇都宮が一番だと思っている。だが、あと一歩…あと一歩だと思う。社員同士で【思いやり】【愛】のある声かけが出来たら、もっともっと成長し風通しも良くなる。宇都宮社員は必ずできると信じている。

「チーム」で「ワーク」と声かけ

古河事業所　副所長　大塚　健治

酷暑期も明け、体調的にも過ごしやすい時期になって参りました。早いもので今年になり３回目の社報を書きしたためております。仲間たちの意思統一の結果、大きな事象は現在発生しておりません。昨年と同様…。ここからが大切な時期に入っていきます。事故が発生していない＝緊張緩和状態。が昨年の失態につながった経緯を踏まえ、過去４年間の事故事象を各月で振り返り掲示及び伝達して「危機意識」を高めております。「チーム」で「ワーク」するには、揺ぎ無い信頼をして臨むのですが、ミスを犯してしまうことがあります。そこで「人」を許し「ミス」を絶対に許さない姿勢で臨む。事象を「負の遺産」と捉えるか「未来への礎」とするのか。６月の維新建設安全推進大会で古河事業所は「表彰対象外」へと失墜し、意気消沈したのは確かです。しかしその後は、職長たちの安全面での妥協を許さない姿勢と、分け隔てなく「声かけ」を行う作業員たちの声がダイレクトに響いている現状があります。これから「重機」や「軌陸車」作業が輻輳して「終盤」に集中力が欠ける恐れ

▶「声かけ」シートでリスクを予測する

があります。「未来への礎」である事象の対策・声かけをもとに「注意力」を高め、残り3ヵ月「交通事故」「労働災害」「重機作業トラブル」を完封して「実りあるお正月」を迎え1月号にて報告したいと考えております。

若手も連軌も訓練で成長

館林事業所　所長　大野 周平

▶ベテランから若手への現場指導に力が入る

館林事業所は今年度のベストモデル【技術力強化で信頼される事業所】を掲げ、1年目の重点実施項目：分岐器の知識を身につけることを、現場にて教育しています。また『私のチェックリスト』を作成して全社員が 1 ヵ月毎の目標を定めて取り組んでいます。春から入社5名も半年たったいま、身体的にも技術的にも知識的にも成長しています。中堅社員も若手の模範となるように、日々頑張っています。事業所としては、連接踏切の床板更換、清掃が館林事業所で出来るように、4月から訓練線に連接踏切を作り定期的に訓練をしています。連接に関しては、前々から東武鉄道様は維新で出来るようになった方がいいよと言われていました。しかしやったことのない作業からの不安で逃げていました。レール更換や連接修繕などの日程を決める時、維新で出来れば調整もきくし何しろ出来高 UP に繋がることから、逃げずにやろうと決めました。訓練線を利用して、何回も何回も練習をして、年内には本番を迎えるようにします。1つの目標に全員で取り組むことによって、チームワークができ館林事業所が進化するように頑張っていきます。

京都トップセミナーで学んだこと

館林事業所　副所長　瀧野瀬　達也

▶安全推進大会を締める全社員での「指差呼称」

ゼロ災運動とは、「一人ひとりカケガイノナイひと」という人間尊重の理念に基づいて職場の安全と健康を職場の全員で先取りしようという安全衛生運動です。KY 活動は、ゼロ災運動の理念に基づき、小集団単位で職場の危険を自分たちの問題として捉えて解決していこうという職場自主活動になります。今回、会社からチャンスを頂き、京都にて泊まりこみの研修で勉強してきました。今回の研修では、他の職種の会社の方々とグループを組み、作業前のミーティングに力を入れて学んできました。職種は違えど問題点は一緒で色々な意見が交換でき、今後にいかせればいいなぁと感じました。また、指差呼称が改めてどれだけ大切なことなのか知ることができました。ちゃんと腕を伸ばして、声を出してやることが前提ですが、集中力

を高めて、意識レベルをチェンジして確認することにより、ウッカリ、ボンヤリ、不注意を防ぐ効果があり、ミスが６分の１以下になるそうです。また、やったからといって作業の遅れはなく時間も変わらないとされています。しかたなしではなく進んで全員でやっていきましょう。今回のセミナーでは、チームワークを実感しました。自分の人間性を理解し、「もしかしたらこんなミスを犯すかもしれない」と危険に対し謙虚に向き合い「私が事故を起こすわけがない」という傲慢さが軽減できると同時に、職場の安全を自分たちで先取りしようとする行動が主体性とチームワークの向上につながり、とても良い効果があると感じました。

2020年全線開通に向けて

部長兼常磐作業所　所長　大宮　勇司

▶帰還困難区域の夜ノ森駅構内

９月に入りまだまだ残暑が続きますが、朝晩は涼しくなり過ごしやすくなってきたのではないでしょうか。福島は何日か暑い日がありましたが、８ 月は雨が多く毎日のように降っていたので熱中症の心配が少ない年でありました。

常磐線災害復興工事も竜田～富岡間の作業を終了し、10 月には運転再開する見込みですが、この区間で苦労したのは 1.8 ㎞の長いトンネルが介在し、そのなかで 250m 程の短マクラギ交換工事でした。トンネル延長が長いため、トンネルの前後に送風機を設置し風通しを良くし、更に二酸化炭素濃度を常に計測器で管理し、警告音が鳴るたびに一旦トンネルから退出しなければならないことと、短マクラギの周囲が樹脂で固められているので、ハンドカッターで切れ目を入れてから特殊な工具で撤去するのですが、マクラギ下面も樹脂でくっつきなかなか縁が切れずマクラギを撤去するのにかなり苦労しました。それでも全員で知恵を出し合い無事に工事を完成させることが出来ました。

残す区間は現在でも帰還困難区域である富岡～浪江間だけとなりますが、この区間も既に７月より夜ノ森構内の道床交換工事に着手しており、いまのところ順調に進んでいます。この区間で手間がかかるのは、発生土を全て黒のフレコンパックに入れて処分しなければならず、軌陸車で発生土を出した後にフレコンに入れて整理するという一手間が増えてしまいます。道床交換も既に全体の半数以上が終了しており、残す工事がレール交換・在姿ロング化・軌道新設・分岐器全交換・PC マクラギ交換となり、ロングレール設定替えを除いて来年の２月末には終了させたいと考えています。

常磐線災害復興工事も最後の追い込みに入ってきましたが、緊張感を持って作業し全線開通に向けてユニオン建設様と一体となり、残りの工事を無事故で完遂していきます。

津波で消えた3kmを復興

釜石作業所 工事責任者　佐藤 卓弥

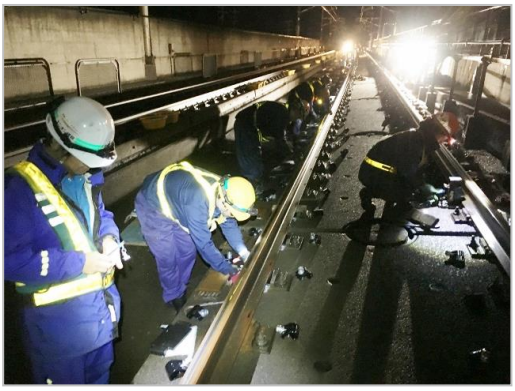
▶単線トンネル内での並マクラギ交換

山田線の復興工事現場にきて1年8ヵ月が過ぎました。自分が今住んでいる周りの状況や現場付近を見ていると復興現場にきた当時より大型ダンプや重機械の稼働、復興現場の数も少なくなってきたと最近は感じております。

今回は10月から始まる新線敷設工事について紹介いたします。これまでは短い区間を断続的に施工してきましたが土木関係の仕事も進み 10月から本格的に軌道工事へ引き渡しになり、「大槌-鵜住居間」全長約3kmの軌道敷設工事が始まります。作業量も多くなり直線区間、曲線区間、橋梁区間、駅構内の分岐器、勾配区間とボリュームアップしての作業内容になっています。そのために10月、11月で人員も増やしながら作業員全員で一致団結してより良い線路を作りたいと思います。

次は無事故・無災害1500日

北上作業所　工事責任者　小野　哲也



▶東北新幹線 新花巻-盛岡間のEBパッド化工事

今年で2度目の夏を迎えたEB付き軌道パッド交換工事ですが、暑いながらも熱中症などの労働災害も無く、昼の準備作業では倉庫内に業務用の大型扇風機を用意して頂き、茹だるような暑さを凌ぐことが出来ました。

暦の上では秋口ですが、ここらで夏場の疲れもどっと出る時期かと思われます。日々淡々と同種作業を繰り返していますので、今一度作業の在り方を考えていきたいと思います。良い物を造るために危ない真似をする？ルールを守らない？では話になりません。どこに危険があるか、ちょっとしたところを改善し次の目標である無事故・無災害1500日達成に向けて、皆が一丸となって目指します！

連絡欄